

第3章 研究の目的と対象

3 - 1 本研究の目的

第2章では観光や宿泊施設の現状や、宿泊施設と環境の関係を見てきた。特に宿泊施設と環境についてみると、ISO14001 や ECOTEL という認証制度を取得する宿泊施設や様々な環境配慮の取り組みを行っている宿泊施設が増加しており、環境に対する意識の向上が見られる。しかしながら、これらの取り組みは主としてハード面の取り組みであり、あまりソフト面の取り組みは行われていないのが現状である。本研究では、このソフト面の取り組みが、今後の宿泊施設における環境配慮の取り組みには重要であると考えられる。

本研究では、研究対象を決める条件として、第2章で示した宿泊施設における環境配慮の領域を全て満たしている事とした(図3 - 1)。つまり、ハード面だけの取り組みをしている宿泊施設ではなく、その取り組みを伝えるというソフト面での取り組みも行っている宿泊施設を対象にする。

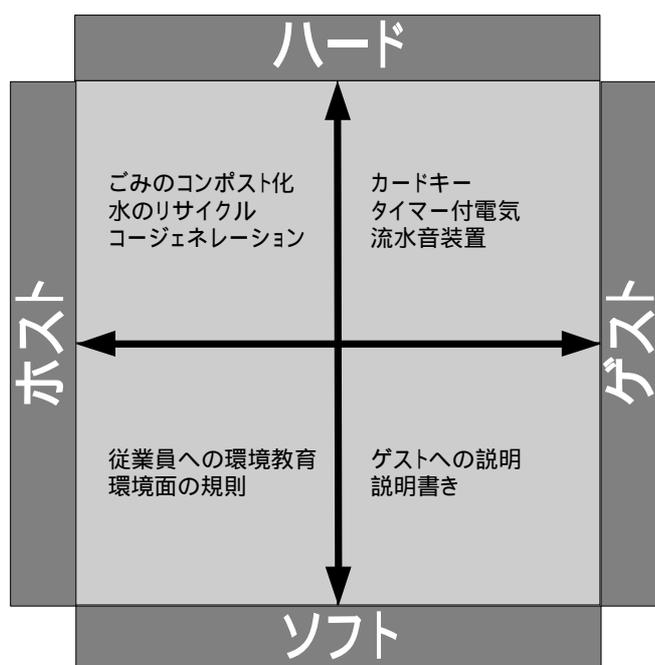


図3 - 1 研究対象とする宿泊施設が取り組むべき環境配慮の領域(グレーの部分)

現在、エコツーリズムやグリーンツーリズムの流行から、自然体験や農業体験といったプログラムを持つ宿泊施設や、無農薬野菜や有機野菜などを用いた自然食を提供する宿泊施設が増加している。これらの宿泊施設はハード面の快適さを追及するよりも、人と人の繋がりやコミュニケーションというソフト面を重視している宿泊施設である。しかし、農業なら農業のみ、自然食なら自然食のみというように一部に特化して行われているものが多い。さらに、ソフト面のみでハード面も取り組んでいるという宿泊施設はほとんどなく、

ソフト面、ハード面における4領域を取り組んでいる宿泊施設は1件しか把握することができなかった(図3-2)。

この1件が本研究で対象とする『舎廬夢ヒュッテ』(以下、舎廬夢とする)という環境共生型ペンションである。ここで言う「環境共生型」とは、物質的な豊かさを追求して環境を破壊する暮らし方ではなく、自給自足をベースにした、自然と共生する暮らしと、循環のある暮らしを目指す¹⁾ということである。舎廬夢は、図3-1のように宿泊施設における環境配慮の4つの領域を全て満たしている。さらに、ここでは農業や自然食だけという一部の取り組みではなく総合的にエコロジーライフを実践している。

本研究では舎廬夢を対象として、現在のような環境共生型のスタイルになった経緯、舎廬夢の成功とされる要因、現在まで継続している理由について、オーナーの思想、その思想をゲストに伝えること、舎廬夢に来るゲストに注目して調査・考察をおこなう。

具体的には舎廬夢という宿泊施設の歴史、システム、プログラムを把握する事により、舎廬夢の全体像や特徴を把握する。さらに、舎廬夢に来るゲストとを調査し、舎廬夢に来るゲストの特徴、初めて来る人のタイプ、リピーターの特徴を把握する。以上より最終的には環境共生型ペンションやエコセンター(3-1-2で説明)への知見を見出す事を目的とする。

本研究では対象が1つである事から、結果を一般化することは難しいと考える。しかし、現在、環境共生型ペンションとしてシステムが巧く機能している希少な事例である。したがって、環境共生型ペンションの見本とすべき一形態として結果を提示する事は可能であると考える。

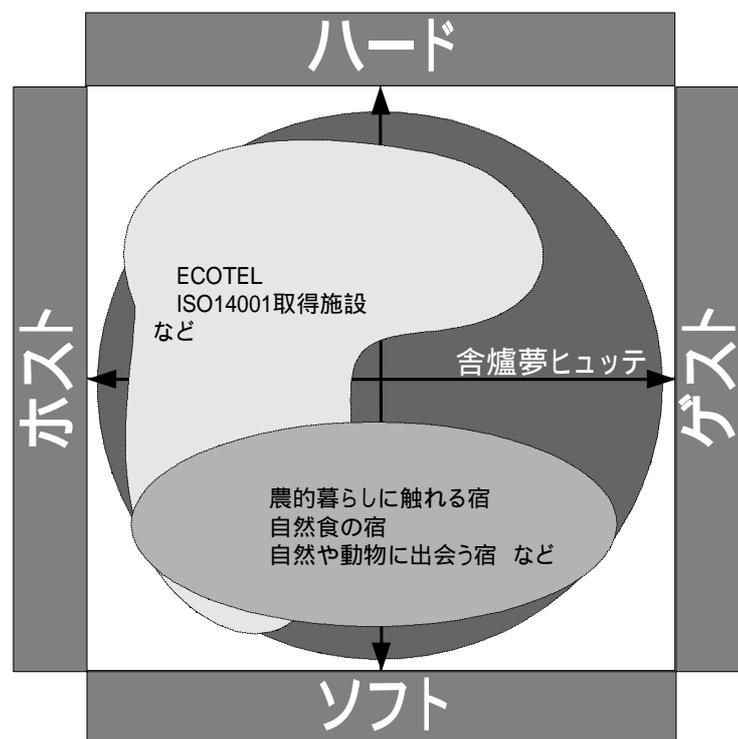


図3-2 宿泊施設のタイプ別、環境配慮の領域

3 - 1 - 1 エコセンターについて

(1) エコセンターとは²⁾

ここで、上記のエコセンターについて説明する。エコセンターとはエコロジーをテーマとするテーマパークである。エコセンターとしての最大の特徴は、バーチャルではなく実際に存在する場所があることである。

エコセンターの基本的な目的は、「持続可能性とはなにか」を勉強するところである。大切な事は実践的なアイデアをきちんと表現し、人から人へ伝わり広がっていく事である。つまり、エコセンターを訪れる人にそこで何かを「見る」のではなく持ち帰ってなにかを「する」事に期待しているのである。

(2) エコセンターが出来る背景³⁾

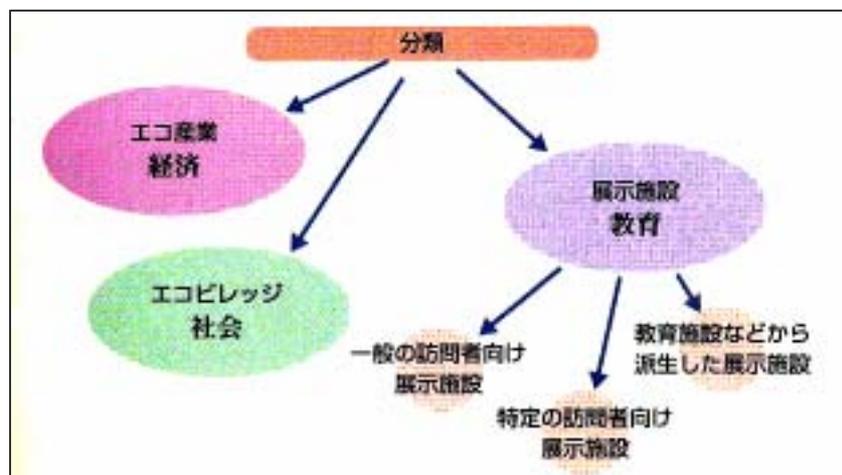


図3 - 3 エコセンターの成立背景

ピーター・ハーパー：エコセンターの作り方，
BIO-CITY No.25，(株)ピオシティ，p5，2003より

次に、エコセンターの設立経緯をしてみる。大きく分けると「産業」、「エコヴィレッジ」、「教育（展示施設・観光）」である。この中で最も多いのは展示施設としてのエコセンターである。展示を行うエコセンターも3つのタイプに別れる。まずは、展示する事を想定し、観光客向けのテーマパークのようなセンター（一般の訪問者向け展示施設）。次は、研究者や学生などを対象にした特殊な展示がされたセンター（特定の訪問者向けの展示施設）。そして、展示する事を想定してはいなかったが、結果的に展示する事になったセンターである（教育施設などから派生した展示施設）(図3 - 3)。

(3) エコセンターと環境配慮の4領域の関係について

次に、エコセンターと第2章で説明した、宿泊施設における環境配慮の4領域との関係を考察する。エコセンターはエコロジーをテーマとするテーマパークである事は述べた。したがって、ハード・ホスの領域やソフト・ホスの領域は満たしていると考え。しかし、エコセンターのテーマや目指している物によって取り組み内容やレベルは異なってくると考える。

次に、ハード・ゲストの領域やソフト・ゲストの領域に関しては、エコセンターではテーマや目指している物の違いはあるものの、ゲストに見てもらったり、体験してもらったり、学んでもらう事により、持ち帰ってもらいながしてもらう事が共通の目的である。したがって、この2つの領域に関しても満たしていると考え。しかし、エコセンターを、宿泊施設の環境配慮の4領域で考える場合、ハードとソフトの境界線、ホストとゲストの境界線は明確ではないと考える。なぜならば、エコセンターで行われるゲストのハード面の取り組みなどは、ゲストに展示して伝える事が目的だからである(図3-4)。

次に、舎廬夢との関係について考察すると、エコセンターはテーマパークであり、宿泊施設ではないが、エコセンターを構成している要素が舎廬夢を構成している要素と類似していると考え(環境配慮の4領域を満たしている)。したがって、舎廬夢からエコセンターへの展開という可能性を示唆する事が出来ると考える。

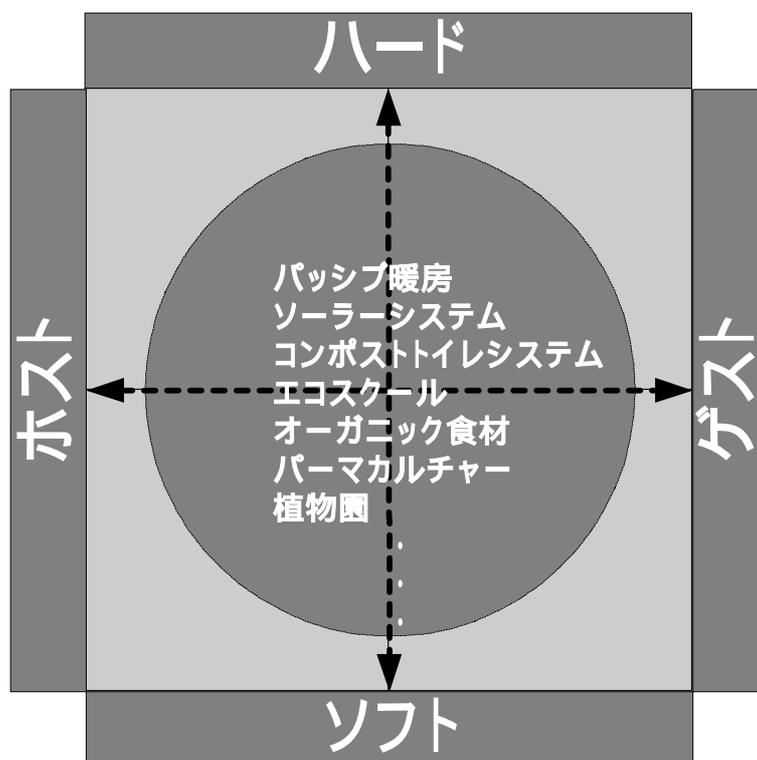


図3-4 エコセンターの環境配慮の領域

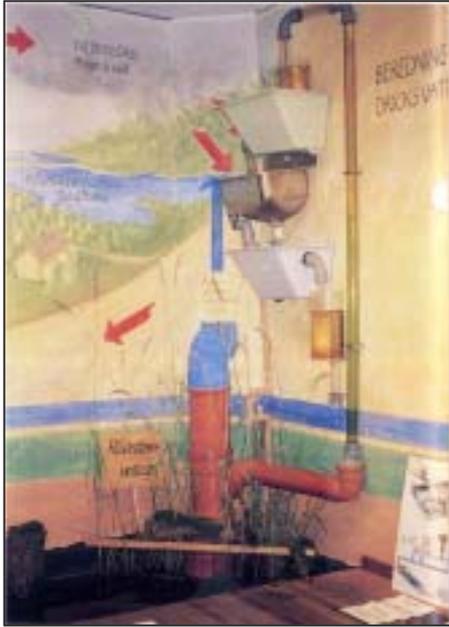


写真3 - 1 エコセンター（スウェーデン）の
汚水の簡易な浄化システムの展示

ピーター・ハーバー：エコセンターの作り方，
BIO-CITY No.25，(株)ピオシティ，p10，2003より



写真3 - 2 エコセンター（スウェーデン）の
エコトイレの展示

ピーター・ハーバー：エコセンターの作り方，
BIO-CITY No.25，(株)ピオシティ，p11，2003より

3 - 2 研究対象（舎爐夢ヒュッテ）について

3 - 2 - 1 概要

舎爐夢は信州の長野県安曇野に今から 24 年前の 1979 年にオープンした宿泊施設である。舎爐夢はオーナーの臼井健二（以下、臼井とする）が山の仲間たちとアイデアを出し合い、建設プランを練り上げ自らの手で作り上げたセルフビルドの宿である。

オーナーである臼井は、名古屋の大学で商学を修め、その後東京の商社に勤めた。しかし、1 年で退社。その後、地元安曇野の山小屋に入る。当初年間 3000 人だった宿泊者は毎年 1000 人ずつ増えた。しかし臼井は、1997 年に山を降りる。それは「あまりに理想的な世界だったのかもしれませんが。そこでは皆が同じ自然環境の中で平等に過ごせる。こんなにお金と関係のない世界は山だけです。でも消費ばかりで生産がなかった。もっと人の中に入り、自分に何かできるか試したかった」⁴⁾ という考えがあったからである。山を降りたあと宿を始めようとする。土地は父親の土地と交換しても



図3 - 5 舎爐夢周辺の地図

らい、資金に関しては山で知り合った人たちに「舎爐夢の会」という会員（この制度については後述）を募って集めた。そして、3年後舎爐夢は完成した。

宿泊者数は完成当初から多少の増減はあるものの、ここ数年着実に増加し、売上も増加している。また、何度も訪れるリピーターが多いことも特徴である。現在、舎爐夢ではマクロビオティックやパーマカルチャー、自然農などに取り組み持続可能な農的暮らしを実践している。また、フェアトレードの雑貨屋やオーガニックレストランなどを含むコミュニティを建設し、エココミュニティとしても注目されている。ここで言うエココミュニティとは自然と人との共生がテーマの共同体という意味であり、安曇野の豊かな自然の中で21世紀の生き方を共に考える集いの場を目指している⁵⁾。

舎爐夢の会について

舎爐夢では計画を具体化するのに必要になる多額の資金を、山小屋で出会った人々に会員として募る事にした。なぜなら、銀行からの借り入れでは返済に追われるのみで、健全な宿泊施設経営は困難になると考えたからである。具体的な会の内容は表3 - 1のとおりである。

表3 - 1 舎爐夢の会の内容

舎爐夢の会の内容	説明
目的	舎爐夢を通じての仲間作りをする事を目的として、舎爐夢を金銭面、精神面、労力面でバックアップする
入会金	1人 10000円
預かり保証金	1口 50000円(何口でも可)この保証金は舎爐夢オープンの日から、満5年経過後に、退会の方には返却する
会員の特典	1口につき無料宿泊券(2食付き)を1枚、2割引き宿泊券(2食付き)を5枚毎年送る。また、各種行事に優待し、喫茶は5割引きにする

以上のような「舎爐夢の会」というものの会員を最初は200人限定で募った。なぜなら、同じような趣旨で、多額の入会金を必要とするようなクラブもあるが、大きな組織になればなるほど家庭的なあたたかみから遠ざかっていくような気がするという考えがあったからである。

つまり、舎爐夢では宿泊施設を始める最初の段階から、人と人のつながりということを重要視して作られた宿なのである。

3 - 3 本研究の調査・分析方法について

3 - 3 - 1 調査方法

本研究では、大きく2つの方法で調査した。まず、1つは舎廬夢の歴史、システム、プログラムを把握する事から舎廬夢の全体像を把握する「舎廬夢」調査である。これは、舎廬夢のホームページ調査、文献調査、オーナーへのヒアリング調査を行った。

もう1つの調査は、舎廬夢に来るゲストの特徴、初めて来る人のタイプ、リピーターの特徴を把握するための「宿泊カード」調査である。この調査には、舎廬夢で実際に用いられている宿泊カード（宿泊名簿のようなもの）を用いた。なぜなら、この宿泊カードは1981年度から1999年度までの18年間の舎廬夢に来たゲストの完全なデータであり、ゲストについての正確なデータを得られるからである。

(1) 舎廬夢のホームページ調査

舎廬夢のホームページ（<http://www.ultraman.gr.jp/~shalom/index.html>）を調べ、そこから舎廬夢についての情報を得るために行った。舎廬夢は1997年からホームページを開設した。舎廬夢のホームページは他の宿泊施設のホームページとは異なり、部屋の料金や予約だけでなく、舎廬夢とはどういう所なのか、舎廬夢のコンセプトなどが詳しく載せてある。さらに、それだけではなく、舎廬夢で取り組んでいる事についても詳しく載せてある。また、オープンレター状というコンテンツから、ゲストの舎廬夢に対する感想や印象を抜き出した。

(2) 文献調査

舎廬夢は現在までに少なくとも55誌以上に取り上げられている（ファッション誌の背景になっているものは除く）。しかも、取り上げられている雑誌のジャンルは様々である。このように、様々な雑誌の情報を調べる事により、客観的な舎廬夢の評価から舎廬夢の把握を試みた。表3-2は舎廬夢が取り上げられた雑誌である（ファッション誌の背景などに取り上げられたものは除いている）。

(3) ヒアリング

舎廬夢のオーナーやスタッフへのヒアリングを行った。2002年9月15日、16日と2003年11月17日、18日の2回行った。このことから、舎廬夢の歴史や舎廬夢の目指すものなどを把握した。質問内容としては、舎廬夢の歴史や考え方、また工夫している点、なぜ食を自然食に変えたのか、舎廬夢の魅力とは、今後目指す事はどういう事かというようなことを聞いた。また、スタッフには舎廬夢に来た理由や実際に働いてみた印象などを聞いた。ゲストのヒアリングに関しては、雑談程度でヒアリングの調査は出来ない。

表3 - 2 舎廬夢が掲載された雑誌リスト

年月	雑誌名/タイトル
2003	自給自足 / すべてを循環させる人
2001	オレンジページ / 心地いい暮らしがしたい 素食が美味しい
2001	リゾート物件情報 / 地球にやさしい住まい方のヒント
2001	anemone / 楽しいお金 嬉しいお金
2001	ソコト
2001	歩こう信濃路夏秋号 / カントリーウォーク 安曇野みちくさの仲間たち
2001	むすび / 癒しの宿、癒しの旅
2001	市民タイムス / 「自然」テーマに共同体作り
2001	信濃毎日新聞 / タウン情報 21世紀は共生がテーマ
2000	ミマン / 私の安曇野物語
2000	菜園生活 / 自然農で育てた野菜のおいしさが、人の輪を広げる
1999	お腹から元気になる本
1999	secsa / 美味しい隠れやリゾート
1999	アルファー / オリジナル器を作る ガラスの里安曇野へ
1999	ユーシーエスプレス / 自然食
1999	ヒーリングリゾート / 美味しいオーガニックホテル
1999	読売旅行 / アトピーの人にやさしい宿
1998	ラ・セーヌ / 紅葉のオーベルジュへ
1998	ウッディライフ / 燻製
1998	NHK今日の料理 / 味こころ 旅こころ
1998	SINRA / この夏自然で癒す宿
1997	caz / こだわりのプチリゾートホテル
1997	きれいになりたい / 舎廬夢ヒュッテを訪れて
1996	TANTO / 信州安曇野食いしんぼ旅行
1996	コンバ21 / 安曇野で自給自足を目指して
1996	自然食通信 / 旅に出よう アトピーでもへっちゃら
1995	自由時間 / 日本で一番いい街 安曇野
1995	コンバ21 / 自然食レストラン食べある記
1995	オリーブ / ナチュラルダイエット
1995	晴れ予報
1994	おはよう奥さん / ナチュラルに生きる
1994	WOMAN / カンパニューの素朴で心温まる味わい
1993	TANTO / 自然の恵みを利用して楽しむナチュラル・リサイクル
1992	LEE / 信州安曇野 高原を遊ぶ 高原を描く
1991	くらしの木 / 自然にかなった地球にやさしい食事とてなしが心にしみ
1988	岳人別冊夏山 山小屋はアルプス大学
1982	婦人と暮らし
1982	夏山JOY
1981	婦人と暮らし
1980	ミリオン / 手作りの家に住む 山の仲間のロッジ作り
1980	セゾンドノン / くっきりと、安曇野の光の中で…
1978	ウッディライフ1-3号
不明	美味しくて安心自然派の宿
不明	女達の便利帳
不明	Japan Health Handbook
不明	きれいになる宿
不明	手作りライフ / 夢を建てた男
不明	アドベンチャー / 朝日旅の百科
不明	北アルプス 安曇野
不明	ペンション物語
不明	まともな食べ物ガイド
不明	もう一つの日本地図
不明	いらっしやいらっしや

3 - 3 - 2 「宿泊カード」調査について

(1) 宿泊カードとは

宿泊カード(写真3-3)とは、舎廬夢に泊まりに来たゲストが記入する名簿である。記入項目としては、個人データである「氏名」,「性別」,「年齢」,「住所」,「職業」,グループデータである「今回の旅は何泊か」,「舎廬夢ははじめてか」,「動機」がある。ここでの個人データとは、言葉の通り個人のデータであり、グループデータとは、宿泊カード1枚を1グループとみなしたデータ(1枚に記入欄は1つで、個人個人での記入はできない)の事である。この宿泊カードの1981年から1999年までの18年間分のデータについて調査した。

この宿泊カードのデータ数を年度別に表したのが表3-3である。ここからわかるように、18年間のデータの合計数は16554枚である。

表3-3 宿泊カードの年度別の枚数

名簿の年代	枚数(枚)
81年度	876
82年度	921
83年度	969
84年度	730
85年度	679
86年度	743
87年度	721
88年度	779
89年度	840
90年度	881
91年度	1156
92年度	1123
93年度	1112
94年度	988
95年度	761
96年度	787
97年度	809
98年度	873
99年度	806
全年度合計	16554

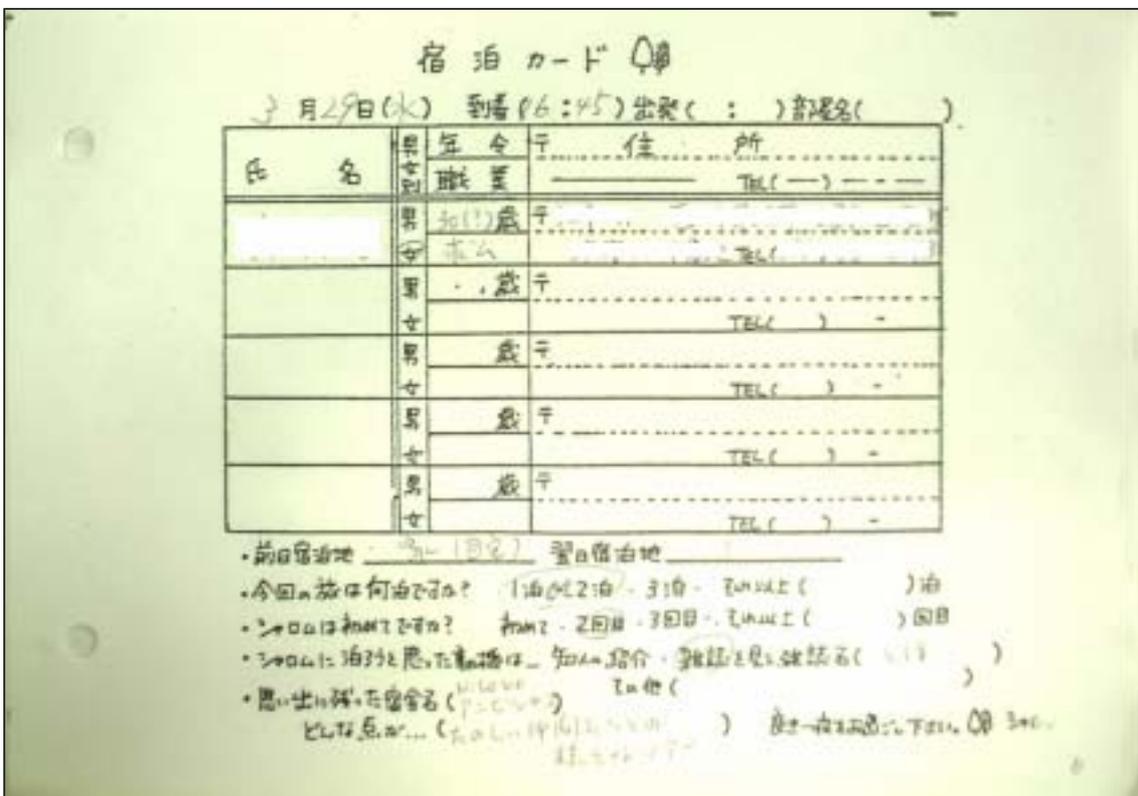


写真3-3 宿泊カード(実物)

(2) 調査手順

まずこの宿泊データ18年間分を、デジタルデータにした。そのために、Windows Accessを用いてデータベースを作成した(図3-6)。これは、膨大なデータをより早く入力するために作成した。項目に関しては、上記で述べた項目以外に来ているメンバーの氏名や住所、性別を考慮して判別する「グループ構成」と記入内容が読み取れない時や記入されていない時のために「不備欄」を付け足した。

個人データ					
① 名刺ID	<input type="text"/>				
② 氏名	<input type="text"/>				
③ 性別	<input type="checkbox"/>				
④ 職業	<input type="text"/>				
⑤ 年齢	<input type="text"/>				
⑥ 郵便番号	<input type="text"/>				
⑦ 住所	<input type="text"/>				

グループデータ			
⑧ 何泊か	<input type="text"/>	⑨ 何回目か	<input type="text"/>
⑩ 時期	<input type="text"/>	⑪ グループ構成	<input type="text"/>

備考

図3-6 宿泊カード入力用データベース

以下に入力する手順と入力方法を図3-6の番号に合わせて説明する。

ここは自動的にナンバーが入力される。

基本的に記入されているように入力する。「氏名」に関しては全てフルネームで記入。

家族で来ている場合も同様に記入。字が読み取れない場合は と記入する。

「性別」は男性の場合のみチェックする。(性別不明の場合は不備欄に性別不明と記入)

「職業」は記入されている場合のみ記入する。記入されていない時は空欄

「年齢」は記入されて入ればその年齢を入力。されていなければ、不備欄に不明と記入

「郵便番号」は - をはさまずに7桁連続で入力する。例： 5600011、×560-0011

「住所」郵便番号を - を入れて入力する。変換すると出てくるレベルの住所を入力

「何泊か」は「今回の旅は何泊か」という項目で、記入されている数字を記入

「何回目か」は「舎廬夢ははじめてか」の項目で、記入されている数字を記入。

「動機」は知人の紹介・雑誌を見てきた（雑誌のタイトルが分かれば雑誌のタイトルを記入し、タイトルがわからなければ雑誌と記入）・知人＋雑誌・その他のいずれかを記入してもらう。しかし、その他の場合はその内容が記入されていれば、それを記入する。

グループ構成」に関してはあらかじめ「1人」,「家族」,「カップル」,「女グループ」,「男グループ」,「男女グループ」,「その他」の7種類に設定した。そして、これらのどのタイプに当てはまるかを、氏名や住所、年齢などを参考にして記入する。

宿泊カードの入力で、6人以上のグループは入力しなかった。それは、宿泊カードが5人しか記入することができないフォーマットになっていたために、データベースを作成する時も同じように5人までしか入力できないフォーマットにしたからである。全体的なデータ数から考えると、6人以上のグループは誤差の範囲に入ると判断した。

3 - 3 - 3 分析方法

(1) 「舎爐夢」調査における分析

「舎爐夢」調査における分析方法としては、ホームページ調査、文献調査（表3 - 2の網掛けの雑誌を参考）オーナーへのヒアリング調査をもとにデータを収集し、そこから舎爐夢の歴史、舎爐夢のシステム（宿泊システム+生活システム）、舎爐夢のプログラムを把握し、舎爐夢の全体像や特徴を把握した（図3 - 7）。

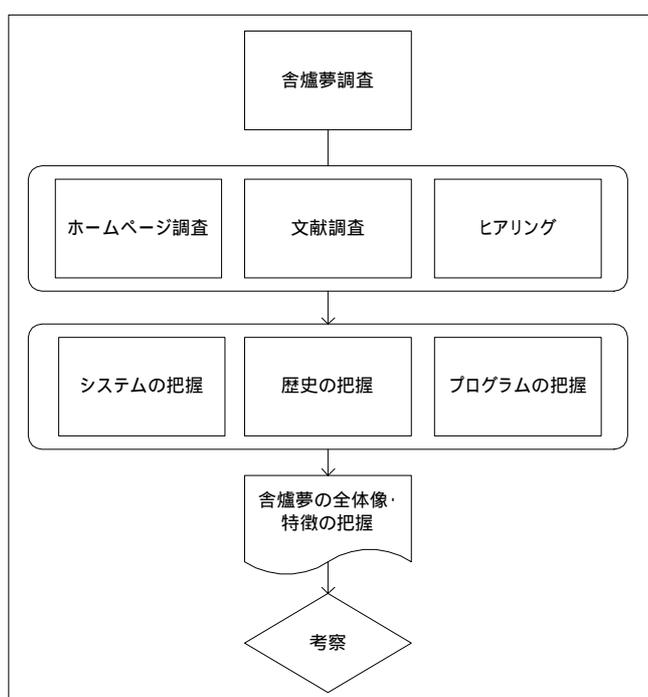


図3 - 7 舎爐夢調査における分析フロー

(2) 「宿泊カード」調査における分析

「宿泊カード」調査における分析方法としては、「宿泊カード」調査から得たデータを、舎廬夢に来るゲストの全体分析、舎廬夢に初めて来る人（以後ビギナー）分析、リピーター分析の3つの分析を行った。ゲストの全体分析では、データの単純集計の結果を基にゲストの全体的な特徴の把握を行った。次に、ビギナー分析では、データの中でもなぜ舎廬夢にきたのかという「動機」に焦点を当てた。そして、その動機の大半が「雑誌を見てきている」ということから、雑誌のタイプ分けを行い、そこからビギナーのタイプ分けを行った。最後にリピーター分析では、グループ構成の変遷に注目して、リピーターのタイプ分けを行った（図3-8）。

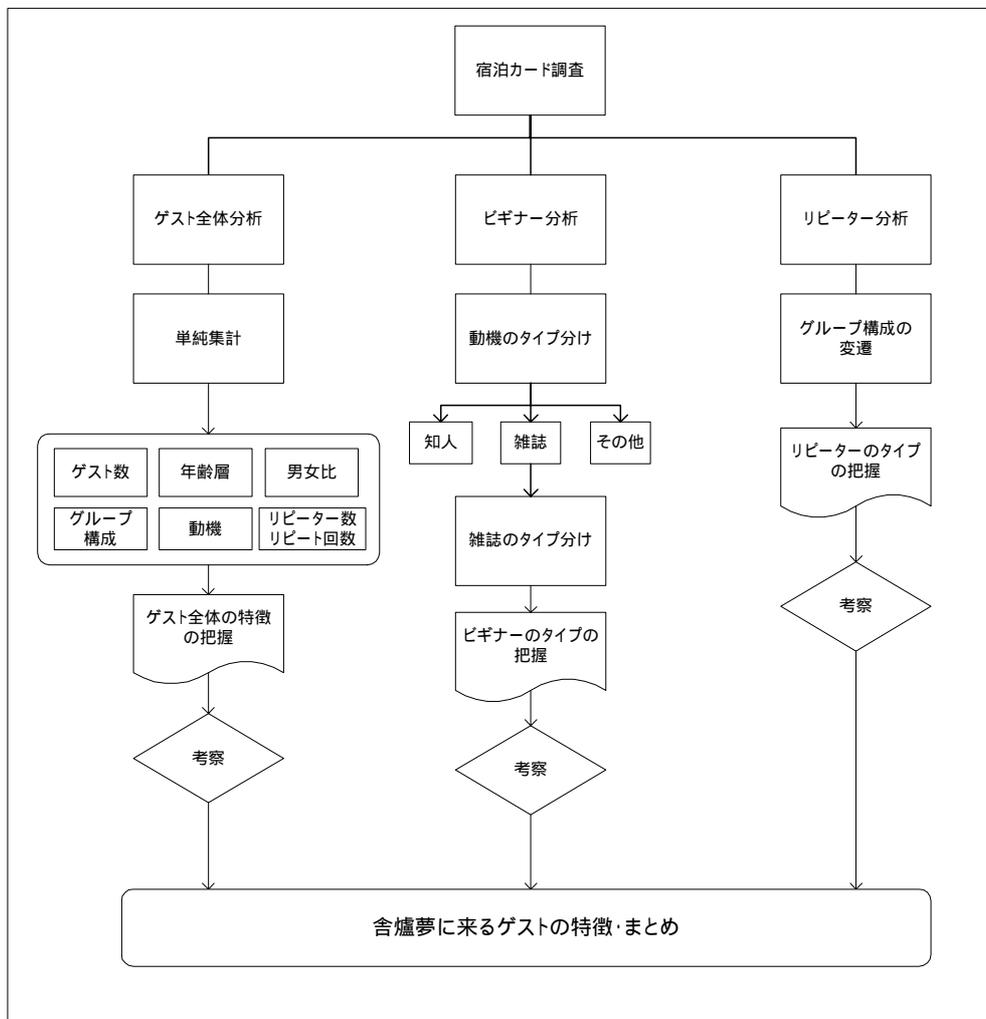


図3-8 「宿泊カード」調査における分析フロー

第3章 註及び引用・参考文献

- 1) 臼井健二：光の国レインボープロジェクト
< <http://www.ultraman.gr.jp/~shalom/hikarinopurojekut.htm> >
- 2) ピーター・ハーパー：エコセンターの作り方，BIO-CITY No.25 ,(株) Bioシティ , p5 ,
2003
- 3) ピーター・ハーパー：前掲書 , p5 , 2003
- 4) 門辺貴至：全てを循環させる人 - 長野県穂高町・臼井さんの暮らし - , 自休自足 Vol.2 ,
(株) 第一プロGRESS , pp36 - 37
- 5) 臼井健二：シャロムコミュニティー
< <http://www.ultraman.gr.jp/~shalomcommunity/> >